

独立行政法人 国立高等専門学校機構 香川高等専門学校

瀬戸内海から世界の海へ～次世代に受け継ぐ外国航路船員の知識・経験～

実施期間：平成28年9月9日（木）～平成29年3月31日（金）



【事業の内容・目的】

- 船員や海運に関する貴重な資料や体験談を題材とした講義・ワークショップ・写真展をきっかけとし、香川県や瀬戸内に住む人を中心に海に興味を持つ人の数を増やす。
- 海への関わり方は人によって様々であるため、それぞれの立場にあった学びの機会を提供し、それぞれにあわせて海に関してより深く知り、考える機会を与える講座やワークショップ、写真展を実施する。
- 海事教育機関学生には、船員 OB を講師としたインターネット中継授業を、一般学生向けには、海ごみ拾い・食育・海運を様々なテーマに関する統合的なワークショップ、一般の方向けには、写真展と船員によるワークショップ、既に海に関する保全活動に興味のある方には、海ごみ拾い・海運に関して学べるワークショップを開催することにより、海に親しむきっかけとしたり、現状よりさらに海の保全活動に興味を持っていただく機会とした。

活動の様子

1. 高松小学校・香川高専詫間C共同ワークショップ in 栗島

【開催日時】平成28年11月12日(土) 8:30～14:30

【開催場所】三豊市栗島西浜海岸、ル・ポール栗島、栗島海洋記念館資料室

【参加者数】香川大教育学部附属高松小学校30人、香川高専5人

【活動内容・目的】。

- 海ごみ拾いや海の食材を学びながら食べる食育ワークショップなどの海に直接触れる活動を通し、地域の海に関してさらに興味をもってもらい、普段から海を意識するきっかけとしてもらうことを目的とする。
- 船員の仕事内容や生活、寄港地での体験等、生徒が普段経験することのない船員ならではの体験談を聞くことで、さらに海に対する興味をもつきっかけとしてもらうことを目的とする。



講師の森田氏から海ごみ拾いに関する説明



高松小学校6年緑組40名と香川高専の学生が協力して、海ごみ拾いを実施



森田氏と香川県環境管理課橋本氏から海ごみの現状についての講義



谷氏による食育ワークショップ。昼食で食べる魚介類の種類と漁場について学習

本活動では、まずNPO法人アーキペラゴ森田桂治氏による海ごみ拾いワークショップを実施した。ビーチコーミングは、ゴミ拾いであるとともに、様々な漂着物と出会える「宝探し」であることが説明された。参加者は、楽しみながら砂浜のゴミを拾う活動を行った。活動の最後には、森田氏から海ゴミの現状と対策について、環境管理課の橋本氏からはかがわ里海プロジェクト活動に関する講義を受けた。参加者は、海を綺麗に保つための海ゴミ拾いの重要性はもちろん、頼みながら活動することの大切さを学習できた。



学習した魚介類をBBQで食べて学ぶ
食育ワークショップ



栗島在住の外国航路船員OB山北友好氏が
自身の経験談を世界地図上で解説

次に、谷益美氏による食育ワークショップが実施された。まず、朝のバス移動時に学んだ〇〇の漁場に関する知識の復習とともに、昼食で食べる魚の名前当てクイズ、瀬戸内海で獲れる魚介類の漁場に関して学習した。その後、実際に魚介BBQを楽しんだ。魚介類についての知識を学ぶだけでなく、実際に口にすることで「食材を提供してくれる場」としての海を意識することがするきっかけとなる活動となった。



船員OBの徳重宏氏が世界中を飛び回った経験
を写真展の写真为例に解説



香川高専藤井研究室製作の船員写真を閲覧
できるアプリを見ながら今日の復習

最後に、栗島在住の船員OB山北友好氏、徳重宏氏による船員写真展ワークショップを実施した。実際に世界を飛び回った船員の経験談、外国から持ち帰ったお土産品を、実際の写真や世界地図、実物を見ながら聞いた。最後には船員写真をまとめて閲覧できるアプリケーションによる学習も行った。これにより、海と世界のつながり、「交通や産業の場としての海」を意識するきっかけとなる活動となった。

【参加者の声】

- 海に落ちているゴミには危険な物から興味を持てる物など、たくさんあると分かった。またそのゴミでたくさんの動物や人が困っていることが分かった。
- 瀬戸内海から出たゴミが他の国にも影響を与えている事を知り、ゴミを減らす活動してみたいと思った。
- 「長い間家族に会えなかった」や「船の中の食事が良かった」などの苦楽を教えてもらって、改めて船員さんの大変さが分かった。

2. 三豊市粟島船員 OB による写真展・ワークショップ

【開催日時】 粟島海洋記念館の歴史学習・清掃 WS :

平成28年9月11日 13:00 ~ 15:00

写真展 : 平成28年10月8日(土) ~ 11月6日

9:30 ~ 16:30

船員 OB による写真展 WS 写真展開催中随時

【開催場所】 粟島海洋記念館資料室

【参加者数】 歴史学習 : 清掃 WS : 22人

写真展 : 約1万2千人、ワークショップ合計223人

【活動内容・目的】

- 瀬戸内国際芸術祭の会期中、粟島を訪れる多くの方々に、船員の知識・資料を通して船員という職業を知ってもらうこと、日本全国の方々が地元の海を普段から意識するきっかけとしてもらう
- 展示会場において船員 OB から実際に話を聞くことのできる機会を提供することで、粟島が古くから海と深い歴史を持つことを知ってもらう



船員 OB の檜垣忠良氏から粟島海洋記念館の歴史についての説明と館内見学



雑然とした資料室と展示品の運搬



子供達は窓ふきを担当



綺麗になった資料室(写真展会場)の様子

本活動では、写真展会場となる粟島海洋記念館資料室の整理・清掃から写真展開催、開催期間中のワークショップの開催を行った。まず、「まちづくり推進隊詫間」のみなさんと香川高専詫間C 藤井研究室による、資料室の整理と清掃が行われた。この活動は、まず海洋記念館の歴史を知るワークショップを兼ねており、船員 OB からの説明と館内見学を行った後、物品の運搬と清掃活動を行った。記念館の歴史を学んだ上で、清掃活動を行うことにより、粟島をはじめとする地元の町と海の深い関係を意識するきっかけとなる活動となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



写真展開催初日に船員 OB が集合



週末を中心に、会場に船員 OB が常駐し、希望者にワークショップを開催

10月8日～11月6日まで船員 OB 写真展「島のじいちゃん達が行った世界の港町」が開催された。期間中は週末を中心に、船員 OB が会場に待機し、希望者に写真や体験談について説明するワークショップも随時開催された。写真展への来場者数は、期間中延べ約 1 万 2 千人（香川高専による独自集計）にのぼった。これにより、瀬戸内海に浮かぶ小さな島が、船員を通して世界とつながっていたことを知ってもらうことができ、非常に多くの方に、「生活の場」としてのみならず「経済活動・交通としての海」を意識してもらう活動となった。



週末を中心に、会場に船員 OB が常駐し、希望者にワークショップを開催



船員 OB に寄せられたメッセージはフォトブック 3 冊にも及んだ

船員 OB によるワークショップには、香川県内外の外国航路船員についてあまり知らない方の他に、現役の船員や海員学校の卒業者、外国からの旅行者も参加した。ワークショップは少人数を対象に随時開催することで、それぞれの興味に合わせた話題を提供し、さらに質問もしやすい環境であったことにより、本活動のアンケートの他にも多くの方が船員 OB へのメッセージを残して下さいました。これにより、海に対する意識の異なる様々な層の方々に、海について考えてもらうきっかけとなる活動となった。

【参加者の声】

- （記念館の清掃に携わって）海洋記念館をより好きになり、身近に感じた
- 船員さんの貴重な写真とお話が聞け、とても興味深かった。貿易で日本が発達する過程で、世界とどんな風に関わってきたかが見えて面白かった。
- 時代を感じる貴重な写真から、日本が海とは切り離せないことを学んだ。
- 船員さんから実際の経験を伺って、船での生活が目に見えた。海のことをもっと知りたいと思った。

3. かがわ里海大学 船員・海運に関する海の学び講座・ワークショップ

【開催日時】平成28年11月13日（日）9：30～14：30

【開催場所】三豊市栗島西浜海岸、ル・ポール栗島、栗島海洋記念館資料室

【参加者数】14人

【活動内容・目的】

- 香川県では、人と自然が共生する持続可能な豊かな海作りを牽引する人材教育を行う「かがわ里海大学」が開催されている。
- 「かがわ里海大学」と協力することで、海に関する意識・関心が高い方々に参加してもらい、普段あまり知る機会のない船員や商船について学ぶことで、海に対してさらに深く興味を持ってもらうことをねらう。さらに海の健全化を図る取り組みの企画・実施に対する興味をもってもらう。



森田氏による海ゴミ拾いWS説明



海ゴミ拾いワークショップの様子



集められたマイクロプラスチック



たくさん集めた海ゴミと記念撮影

本活動では、まずNPO法人アーキペラゴ森田桂治氏による海ごみ拾いワークショップを実施した。まず、海岸に多く落ちているゴミや漂着物には様々な種類があり、それぞれのゴミが様々な地域から流れてきているものであると説明された。参加者は、ゴミの種類を調査しながら、それらがどこから流れてきたか考えながらゴミ拾いを行った。活動の最後には、森田氏から海ゴミの現状について、環境管理課の橋本氏からはかがわ里海プロジェクト活動に関する講義を受けた。参加者は、海を綺麗に保つための海ゴミ拾いの重要性はもちろん、瀬戸内の海ごみが世界に及ぼす影響について学習できた。



船員 OB の徳重氏からの説明



船員 OB 檜垣氏からの説明

最後に、粟島在住の船員 OB 檜垣忠良氏、徳重宏氏による船員写真展ワークショップを実施した。写真展の写真を順に見ながら、実際に世界を飛び回った自身の経験談をお話し頂いた。また、船員時代のお土産品の紹介や、世界地図に記された経験談の説明を行い船員時代の苦労についても紹介された。



船員 OB 写真を閲覧できるアプリ



アプリを使って学習する様子

最後には船員写真をまとめて閲覧できるアプリケーション「粟島船員資料館」による学習も行った。参加者は写真展では紹介できなかったたくさんの写真を、アプリで閲覧し船員や海運についての理解を深めた。これにより、海と世界のつながり、「交通や産業の場としての海」を意識するきっかけとなる活動となった。

【参加者の声】

- 船員の方の生の声を聞くことができ、海(瀬戸内海)は世界に繋がっていると感じた。
- 海を大切に守っていく必要があると感じた。
- 粟島の歴史を教えて頂き、四国再発見の場となった。大切な海を後世に残せるように努めたい。
- 40年前の船員さんの話を聞ける機会というのはとても貴重だと感じた。香川の中の小さな島、そこから世界の海へのつながりを感じた。

【事業全体のまとめ】

本事業を通し、香川県下をはじめとする様々な教育機関、自治体との連携体制を構築することができた。船員や海運に関する貴重な資料や体験談を題材とした講義・ワークショップ・写真展により、多くの方々が船員や海運をはじめとして、海を美しく保つ活動に対する興味を喚起することができた。特に写真展は、各報道機関に多く取り上げられることで、県外からの来場者も多く訪れ、当初の予定以上に様々な方々に海の学びの場を提供することが出来た。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 香川県環境森林部環境管理課	「かがわの里海づくり」事業の一環としてワークショップ実施
2. 香川大学教育学部附属高松小学校	課外活動としてワークショップ参加
3. まちづくり推進隊詫間	粟島海洋記念館の物品整理・清掃のボランティア
4. 三豊市産業政策課	会場の設営協力・島内在住協力者との調整

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 朝日新聞（香川版）	「香川）船員たちが見た世界の海 写真発掘し展示 粟島」、2016年9月26日
2. 四国新聞（香川版）	「粟島元船員の歩み写真で 旧海員学校・8日から 世界の寄港地、証言も」（2016年10月6日）
3. NHK 高松	10月20日 ゆう6かがわ
4. 毎日新聞（香川版）	粟島から世界へ、船員の写真展 寄港地や船上風景107枚 旧海員学校で紹介、2016年10月25日
5. せとうち暮らし	粟島『島のじいちゃんが行った世界の港町』、2016年10月25日（web記事）
6. 離島経済新聞	【Welcome!】世界を股にかけた島の元船員たちの写真展 粟島で開催中、2016年10月28日（web記事）
7. 四国新聞（香川版）	海の大切さ学ぶ 漂着物収集、海運業の歴史… 粟島でワークショップ 附属高松小児童30人参加、2016年11月13日

以上